

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科	
科目名称	人間と自然の共生						授業形態	講義	
科目コード	750007	単位数	2単位	配当学年	1年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	山口 健一								
授業概要	地球環境問題を解決し、持続可能な循環型社会を形成するためには、自然からの‘搾取’によって成し遂げた過去の経済発展から脱却し、自然との‘共生’によるサステナブルな発展へと転換することが必要である。本授業では、農業を事例として‘共生’をキーワードに自然に関する基礎知識を学び、人間も生態系の一員であることを再認識することを目的とする。								
関連する科目									
授業の進め方 と方法	毎回の授業を口頭でレクチャーしながら、要点を板書する。また、重要箇所については、データ等関連する資料を配布して説明する。受講生は毎回授業ノートを作成し、配布資料をファイリングしてすすめる。 15回授業の中で3回程度は、体験学習として屋外で自然と人間が共生している環境保全型農業体験を実施する（アクティブラーニング）。								
授業計画 【第1回】	01. 授業の概要と進め方 人間と環境のかかわりについて学ぶ。 体験学習等の授業日程を説明する。								
授業計画 【第2回】	02. 環境と生態系について 環境を構成する要素と自然生態系について学ぶ。								
授業計画 【第3回】	03. 人間と自然のかかわり 自然環境の中で人間のかかわりを学ぶ。								
授業計画 【第4回】	04. 生物と人間のかかわり 生物の種類・分類と人間の位置づけを学ぶ。								
授業計画 【第5回】	05. 地圏の基礎 地球の地下構造と土壌について学ぶ。								
授業計画 【第6回】	06. 地圏と人間のかかわり 生物生産の基盤である土壌と人間のかかわりを学ぶ。								
授業計画 【第7回】	07. 人間と自然の共生事例【1】農業の多面的機能 農業（作物生産・家畜生産）と農業が有する社会的機能について学ぶ。								
授業計画 【第8回】	08. 人間と自然の共生事例【2】農業の環境上の問題（1） 慣行農業で多用する化学肥料・農業の環境上の問題点について学ぶ。								
授業計画 【第9回】	09. 人間と自然の共生事例【3】農業の環境上の問題（2） 慣行農業の問題点として家畜排せつ物および資材廃棄物について学ぶ。								
授業計画 【第10回】	10. 人間と自然の共生事例【4】農業体験学習（1） 人間と自然が共生する環境保全型農業について野外で学ぶ。								
授業計画 【第11回】	11. 人間と自然の共生事例【5】農業体験学習（2） 人間と自然が共生する環境保全型農業について野外で学ぶ。								

授業計画 【第12回】	12. 人間と自然の共生事例〔6〕農業体験学習（3） 人間と自然が共生する環境保全型農業について野外で学ぶ。
授業計画 【第13回】	13. 気圏の基礎、人間とのかかわり 人間を取り巻く大気圏について学ぶ。
授業計画 【第14回】	14. 水圏の基礎、人間とのかかわり 人間を取り巻く地球の水について学ぶ。
授業計画 【第15回】	15. 循環型社会に向けて 持続可能な社会発展について学ぶ。
授業の到達目標	人間を取り巻く環境（大気・水・土壌・生物）の重要性について認識するとともに、‘人間と自然の共生’事例として、環境保全型農業の仕組みを理解する。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)/2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)
授業時間外の学修 【予習】	次回の授業項目をアナウンスするので、図書室等を利用して各自で予習を行う。（30分程度）
授業時間外の学修 【復習】	授業ノートおよび配布資料を参考に、受講生各自で毎回復習する。（1時間程度） なお、不明な箇所については、授業の前後やオフィスアワー等を利用して担当教員に質問する事こと。
課題に対する フィードバック	受講生からでた授業の質問およびその回答については、授業中に公開して受講生の間で共有する。 屋外での体験学習を生かして、担当教員、SA、技術職員とアクティブラーニングをすすめる。
評価方法・基準	定期試験（80%）を実施し、課題の提出および受講態度等（20%）を含めて総合的に評価する。
テキスト	授業に携帯する市販の教科書は特に定めない。 授業内容に関する資料や参考となる図書を都度配布・紹介する。
参考書	授業の進展にそって、関連する参考書や資料等を適宜紹介する。
備考	座学の講義が中心であるが、授業の一部を環境園芸学部附属フィールド教育センターや綾町の有機栽培圃場など屋外での体験学習を行う。